

令和7年度 埼玉県公共事業景観形成指針専門家アドバイス【基本設計段階】 (仮称) 綾瀬川橋詳細設計業務委託

アドバイスの趣旨

事業予定地には、川の高水敷のビオトープを含む「綾瀬川バードサンクチュアリ」があり、良好な自然環境と景観を有している。また、堤防上には遊歩道が整備されており、散歩をする人も多く見られる。
以上のことを踏まえ、水辺の自然環境と調和する整備をすることが望ましい。

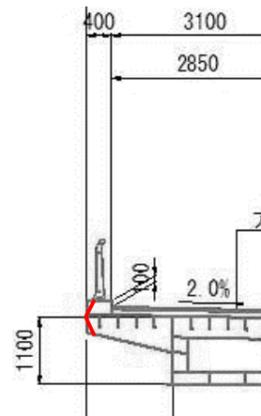
1 遊歩道を視点場とした良好な景観創出に関するアドバイス

(1) 水辺の自然環境と調和するデザインを検討する

- ・張り出し部分の端部について、面取りを行うと圧迫感が軽減され、スリムな印象を与えられるデザインとなる。(図1)



図1 端部の面取りの例(西仲橋)



- ・橋脚の圧迫感を軽減するため、張り出しを大きくして、橋脚の幅を小さくできないか検討すると良い。

- ・張り出し部分の端部について、異素材の接合部を工夫するとすっきりとしたデザインとなる。(図2)



図2 鋼部材とコンクリート部材の水平位置をずらし切り替えている例(名古屋高速 東山高架橋)

- ・地覆を桁の端部までではなく、橋台の翼壁まで一連で整備することで、軽快で連続性を感じられるデザインとなる。(図3)



図3 地覆を橋台の翼壁まで整備した例(中部空港アクセス線りんくう高架橋)

- ・添架物やその附属物について、できるだけ見えないように配慮すると、橋のデザインが引き立つ。

- ・街灯などの道路附属物について、橋梁と調和する色彩にするとよい。

(参考：[景観に配慮した道路附属物等ガイドライン P13](#))

<景観に配慮する基本的な色彩のマンセル値>		
色相/明度/彩度		
・ダークグレー(濃灰色)	10YR3.0/0.2	
・ダークブラウン(こげ茶色)	10YR2.0/1.0	
・オフグレー(薄灰色)	5Y7.0/0.5	
・グレーベージュ(薄灰茶色)	10YR6.0/1.0	

※色見本は、閲覧環境により実際の色とは異なる場合があります。

2 周辺環境に関するアドバイス

(1) 水辺の自然環境を生かした遊歩道の代替ルートを検討する

- ・代替ルートについては、橋梁の下を通るなど連続性や河川へのアクセス性を意識して代替ルートを検討すると良い。

(2) 周辺環境の向上につながる整備を検討する

- ・取付け護岸を施工する際には、人間が快適に感じるサイズやスケールの自然石やコンクリート表面のブラスト処理を採用することにより周囲の環境になじみやすい景観が創出できる。(図4、図5)

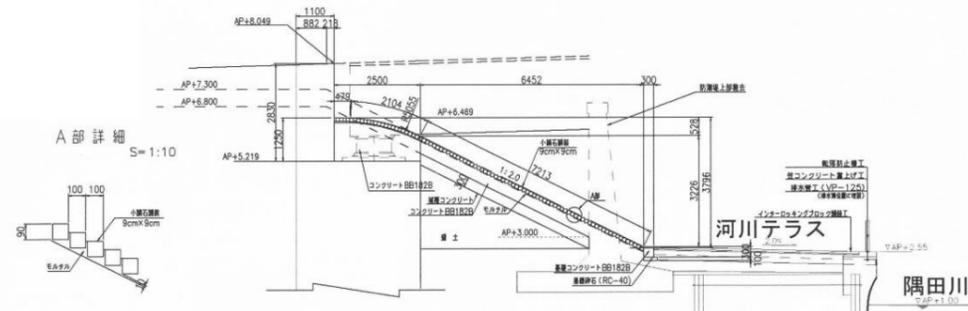


図4 護岸に10cm角の割石(ピンコロ石)を使用した例(新豊橋)
(出典：第13回鋼構造と橋に関するシンポジウム論文報告集「新豊橋のデザイン」)



図5 自然石を用いた護岸の例(津和野川)

- ・現在あるバードサンクチュアリを移設した場合は、周辺環境に配慮するとともに、その跡地を利用して法面の勾配を緩くし遊歩道へ行きやすくする、遊歩道と一体的に活用できる休憩施設を設けるなど、周辺環境の向上につながる活用を検討すると良い。

参考意見

- ・街灯の配置や植栽のデザインに配慮し、夜間の安全性についても配慮できると良い。
- ・水辺にアクセスできるような整備をするのであれば、河川部門、環境部門において水質や生態系に配慮した維持管理や整備も合わせて行うと良い。
- ・住宅地に近接するため、周辺住民に定期的に情報提供し、意見を十分に取り入れながら事業を進めることが望ましい。



図1 端部の面取りの例（西仲橋）



図2 鋼部材とコンクリート部材の水平位置をずらし切り替えている例（名古屋高速 東山高架橋）



図3 地覆を橋台の翼壁まで整備した例（中部空港アクセス線りんくう高架橋）



図5 自然石を用いた護岸の例（津和野川）